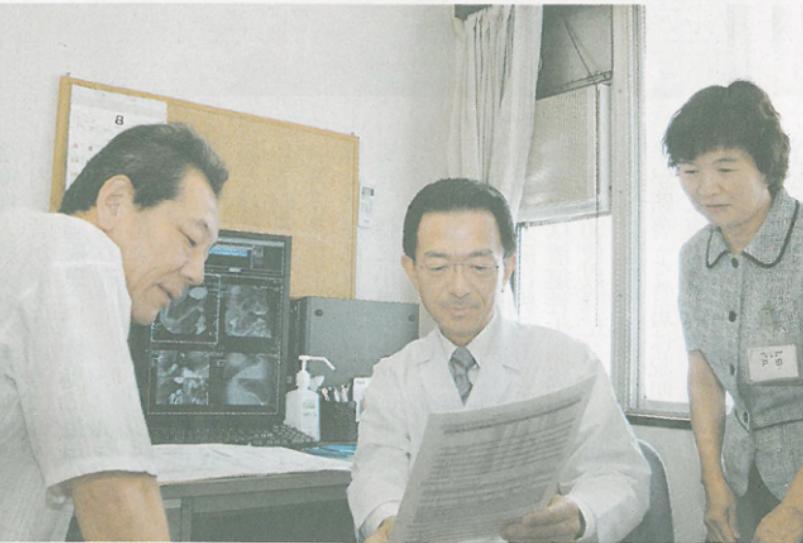


日本人間ドック学会などの機能評価に基づく認定施設（岡山県内）

施設名	所在地
金田病院	真庭市西原
倉敷成人病健診センター	倉敷市白楽町
倉敷平成病院平成脳ドックセンター	倉敷市老松町
倉敷中央病院総合保健管理センター	倉敷市鶴形
落合病院	真庭市落合垂水
ESクリニック	津山市津山口
岡山赤十字病院	岡山市北区青江
淳風会健康管理センター	岡山市北区大供
倉敷第一病院	倉敷市老松町

*認定施設別の評価が掲載されている
同学会ホームページによる



さまざまな検査結果を見ながら、健康を保つ上での注意点を医師から聞く人間ドック利用者（左）＝金田病院

人間ドック学会 機能評価

体制チェックし質保証 岡山県内は9施設認定

機能評価は2004年に始まつた。ハードルは低くない。「受診者の満足と安心」「人間ドックの質の確保」など4領域184項目で書類審査を受け、72ある評価観点の全てで5段階評価の3以上を得る必要がある。また、訪問調査員2人の聞き取りにも臨む。

信頼獲得へ

真庭市西原の金田病院は05年に県内でいち早く認定を受け、10年に更新した。「ホスピタリティー（もてなしの心）」を重視。女性の乳がんマンモグラフィー検査では、女性スタッフが対応するのも特徴の一つだ。

「私たちの人間ドックが住民から一層信頼を受けるには、病院外のチェックによる質の保証が必要。一も二もなく認定を目指した」。金田道弘理事長は動機をこう振り返る。

県内の認定例がなかったこと

もあり準備は大変で、職員の緊張は大きかった。顕著だったのは訪問調査への備え。同病院健診課は「何を尋ねられるか分からなかっただけに、すらすら説明できるよう必要な事項を頭にたりに込んだ」と説明する。

認定を機に事業所との契約が増え、受診者数も幾分伸びた。認定取得を考える大分、広島、香川各県などの施設が次々見学に訪れたといい、金田理事長は「施設間での信頼を得ることもできたのでは」と話す。

有効は5年

認定の有効期間は5年。更新する場合には、金田病院のように再び機能評価を受けなくてはならない。

岡山赤十字病院（岡山市北区青江）の人間ドック。08年に得た認定は来年3月に期限を迎える。独りよがりの運営にならないように――というのが、認定を得ようとしたそもそもの理由。

「外部チェックを受けることで業務改善につなげたい」（宮下雄博健診部長）として更新する予定だ。

県南部の拠点病院の一つ。それぞれの病気に対応する各種学会の専門医が多数在籍し、必要に応じて行われる精密検査（精密検）の後の治療に控えるのも特徴とする。胃の検査では精度向上を狙って、鼻から入れるタイプで痛みが少ないとされる「経鼻内視鏡」も採用している。

更新をにらみ、精査や再検査を実際に受けた人の数の底上げに腐心する。「決して遜色ない数字」（同病院）が現状ではあるものの、数は多ければ多いほど良いとされるだけに、緊急性が高い場合は電話連絡で受診を促すなど努力している。

資質向上に寄与

認定に向けた機能評価への申込数は、全国的に伸び悩んでいた。会員施設数約1600の日本間ドック学会は「当初は年に60～100施設が希望したが、現在はそこまでは達しない」と説明する。

機能評価では35万円（更新時30万円）の「受審料」が必要。労力と費用の割に「受診者数が増えて大きな経済的メリットがあつたと感じにくい」（県南部の認定施設）ことは、伸び悩みの一因ともられる。一方で「職員の資質向上につながったとの声も聞く」（同学会）といい、見えない効果もあるようだ。

健康管理の一翼を担う人間ドック。施設側の希望に基づき運営体制を調べて品質保証する「機能評価」制度を、日本人間ドック学会と日本病院会が行っている。詳細な調査を経てお墨付きを得た認定施設は全国で約280。このうち9施設ある岡山県内で、同制度の現状の一端を見た。（白杵正純）